

# 近郊ウォーキング



1段だけ整然と並べられた丸い石が石臼。160個並んでいる

## イヤガ谷東尾根

生4-東 廣川 幾雄

毎月山歩きを楽しんで来た我々の仲間は六甲全山縦走(分割)を達成したほどの元気者ぞろいだったが、バスの優待券を手にする年頃となると坂道が苦手になって来た。

今回は最近歩いた中で一番好評だった道を紹介することにしよう。山登りというより下り専門で、今は芦屋マダムに納まっているミッチーが、震災直後電車が不通の間星和台から都心まで徒歩通勤したという道である。

まず神鉄鈴蘭台または西鈴蘭台から出発する。駅から南へ君影町という住宅地を最南端まで40分ほど歩く。学のあるちびまる子ちゃんによると、鈴蘭の別名を君影草ということから新興の住宅地にこの名がついたという。この君影町の上り坂がコースの中で一番きつい。最南端に東尾根入口の看板があるので、ここから林の中をゆるやかに下って行く。ほどなく名号岩というポイントに着く。これを左に折れて10分ほど歩いた所に名号岩がある筈だが、何も見えないし、危険だから行かない方がいい。1860年ごろ極楽寺の和尚様が旅人の安全を祈って「南無阿

弥陀佛」の名号を独力で岸壁に彫ったという。地元の古い人に聞くと「電車から見えます」というので、電車に乗るたび何十回と目をこらして見るのだが見つからない。それもその筈、ダム建設のため電車の線路が付け替えられ今はトンネルになっている。名号岩は上からも下からも見えない所にある。という事で名号岩をあきらめて先へ進もう。

神戸電鉄の警笛をすぐ下に聞きながらさらに下って行くと、鶴越駅方面と烏原水源地へ行く道とに分かれているが、ここまで来たら水源地へ向かおう。

烏原水源地は1905年神戸市の上水供給のため建造されたもので、石を積み上げて造ったダムは国の文化財に登録されている。昔ここには烏原村という村落があって、村人は水車を利用して石臼を回し線香の製造をしていたが、ダムのため立ち退きを余儀なくされ村は水没したという。当時使われていた石臼が護岸の材料として使用されている。160個の石臼が一列に並んで埋め込まれている風景は壮観で一見の価値がある。

さらにその昔、この道は平清盛が丹生山参拝の道として開かせた道で

あると言われている。すなわち福原から烏原村、名号岩、鈴蘭台、藍那、丹生山というコースである。清盛はこの道を通って毎月丹生神社へ参拝していたという。

湖畔のベンチで弁当を広げ、しばらく散策してダム下の道を川ぞいに下れば石井町である。時間があれば天王温泉で汗を流して帰ることもできる。

## 編集後記

未曾有の惨事から9年経ち、風化させまいといろいろな市民参加のメモリアル行事が行われましたが、被害を広げた水利不足による火災に対してもう水利設備の整備は万全なのでしょうか。寡聞にしてそのような宣言があった記憶がありません。さて情報ぎゃらりー誌を4回出すと1年が経ちます。どうぞことしもお愛読よろしく願います。(サン)

内閣府の調査によると夫が外、妻は家庭という性別役割分担の意識調査では、賛成・反対それぞれ47%で共同参画の意識の浸透が窺える。しかし社会各分野での地位平等意識では職場25.9%、法律制度上は36%、家庭生活40%、政治においては8.8%にとどまり、諸外国に比し著しく立ち遅れが目立っている。ニッポンは未だ東洋のサムライか。(TS)

ざわわ ざわわ でなくサマワ サマワでイラクと北朝鮮のラチ問題で姦しい。身近なボランティア活動で日が過ぎて行く。日本は平和なんですかねえ。(生)

近年、地球の気温が上昇したせいもあってか、草木や人も熱くなって狂った行動のニュースをよく見かけます。淡路島では水仙の花が例年より2週間も早く咲き、よい香りを放っているという楽しくなるお話、片や仕事が尠ならず気晴らしに危険物を仕掛けたと人騒がせな物騒なお話で紙面を賑わして申年が始まりました。どうせ狂うなら前者の方にお願したいものです。私もみなさんの足を引っ張らないように心がけます。年頭に当たっての抱負です。(ふみ)